



DOCOMO TEAM DANDELION RACING Team Release

決勝レポート

2026/10/11 Rd-10 Fuji Speedway

天候：晴れ 気温：25℃ 出走台数：24 台

観客数：9 日(金)3,400 人、10 日(土)22,300 人、11 日(日)28,000 人 合計 53,700 人

午前に行われた予選に続き、午後に開催された第 10 戦決勝レースは、晴天の下 15 時にスタート。2 列目 4 番グリッドスタートの太田選手は、集団の中で一時 5 番手ポジションとなるが、1 コーナー立ち上がりの混乱を切り抜け 3 番手に。4 周目にはフラガ選手を抜き 2 番手に浮上、ここからレースをマネジメントする走りに。

牧野選手はスタートで 2 ポジションダウンの 14 番手を走行。

ピットストップウィンドウが開くと、チームは集団の中でペースが上がらない牧野選手をピットに呼びタイヤを交換。後半に向けてペースアップを図る。

2 番手走行の太田選手は 17 周目にタイヤを交換、そのアウトラップのコカ・コーラ・コーナーで大湯選手と接触する場面もあったが太田選手はそのまま走行を続けることができた。そのタイムロスに反応したか、オーバーカットを狙うフラガ選手が翌 18 周目にピットへ。アウトラップのフラガ選手の後ろから太田選手は猛プッシュ、ダンロップコーナー侵入から激しいバトルを繰り返す。その直後の GR GT コーナーで、ややアウトに膨らんだフラガ選手のインに飛び込んだ太田選手だったが、ラインが交錯し接触。コースアウトしレースを終えることとなった。

牧野選手は 3 度導入されたセーフティカーの混乱を切り抜け、4 番手までポジションアップ。残り 9 周でさらに上位を狙うも、徐々にペースが落ち 6 位でチェッカーを受けた。

この結果、太田選手のドライバータイトル及びチームタイトル争いは最終鈴鹿大会に持ち越されることになった。

5：牧野任祐 選手 6 位

昨日の第 9 戦ではこれまでと違ったコンセプトのセットアップで後半のペースが上がらず苦しかったことから、スタンダードセットに戻して臨みました。

終盤タイヤがきつくなることは承知で早目のピットインをしましたが、想定以上にペースダウンしてしまい、ポジション維持することが出来ませんでした。

予選も同じ症状が解消できずにいるので、最終戦鈴鹿に向けてこの課題を克服したいです。

6：太田格之進 選手 リタイヤ

スタートから着実に順位を上げ、フラガ選手の前で 2 番手になったところまでは勝ちパターンでしたが、ピットアウト後の接触があったり、フラガ選手とのバトルでリタイヤになったりと、私もチームも上手く行かない事の多い週末になってしまいました。

一度ここで気持ちを引き締め直し、鈴鹿で勝ってチャンピオンを決めたいです。